

〈展覧会紹介〉「ももきねの美 清流の旅～日本画の巨匠と陶芸の人間国宝～
岐阜県美術館名品展」

[2～3]

〈イベント報告〉「写真展 オードリー・スタイル 飾らない生き方」

[4～5]

〈展覧会紹介〉「見せます、魅せます日本の美 “うつくしの逸品”」

[6]

令和2年度新収蔵作品紹介

[7]

次回展覧会のお知らせ

[8]

それゆけ！ブブ広報部隊 其ノ十五

美術館喫茶室ニホ特別メニューのお知らせ

お知らせ

MUSEUM NEWS Vol.169

だ よ り 美 術 館

表紙：川合玉堂「日光裏見瀧」（部分）明治36(1903)年頃 岐阜県美術館蔵



かわいぎょくどう

川合 玉堂（1873―1957）

たゆたひ遊ぶ



川合玉堂「鶴飼図」明治35（1902）年



川合玉堂「養老図」明治35（1902）年

愛知県に生まれ少年期を岐阜市で過ごす。はじめ京都で学ぶが橋本雅邦の《龍虎図》に感動し上京、岡倉天心、雅邦入門。四条派と狩野派を融合させ日本の山水を詩情豊に描いた。

はるばる来ぬる秋の旅



川合玉堂「日光裏見瀧」明治36（1903）年頃

おほしすいせき

大橋 翠石（1865―1945）

岐阜県大垣市生まれ。明治期パリ万国博覧会で、日本人画家として唯一の金メダルに輝き、セントルイス万博でも連続して金賞受賞。当時、世界で最も高く評価された「虎の画家」。

虎視眈々

はるかなる山

かとうたくお

加藤 卓男

（1917―2005）

岐阜県多治見市生まれ。ベルシャの古陶研究に力をそそぎ、幻の陶器といわれたラスター彩や三彩を復元。宮内庁の委嘱で、正倉院三彩の復元制作にも成功した。人間国宝。

いにしえの色



加藤卓男「三彩花器 銘爽容」平成2（1990）年



塚本快示「青白磁大皿」昭和54（1979）年

つかもとかいじ

塚本 快示

（1912―1990）

岐阜県土岐市生まれ。小山富士夫らに学び、中国北宋期の白磁、青磁を中心に研究し、清新で繊細な作風を示した。現代に息づく陶磁を重視し、日用品の創作も積極的に行なった。人間国宝。

水くくるとは

おくだげんそう

奥田 元宋

（1912―2003）

川合玉堂の弟子・児玉希望に師事し、疎開した郷里の美しい自然の中で、人物画から一転して風景画に開眼。「元宋の赤」と称される鮮烈な赤を主調に、実景をもとに心象風景を追求した。

あかね燃ゆる



奥田元宋「紅嶽山霊」制作年不詳

あらかわとよぞう

荒川 豊蔵

（1894―1985）

岐阜県多治見市生まれ。宮永東山、北大路魯山人のもとで作陶。岐阜県可児かに「市大宣（おおがや）に桃山時代の窯跡を発見し、その地で生涯を古志野、瀬戸黒の再興に捧げた。人間国宝。

さわらびの春



荒川豊蔵「志野茶碗 銘早春」昭和53～54（1978～79）年頃

日本画の巨匠と

陶芸の人間国宝

岐阜と福井は隣県同士として、古くから人やものが往来し合う豊かな関係を結んできました。この絆は、中部縦貫自動車道の整備に伴い今後一層の発展が期待されています。本展は岐阜・福井交流のシンボルとして両県立美術館の連携による展覧会です。〃百岐年（ももきね）〃を枕言葉に岐阜をうたった『万葉集』の歌を道しるべに、岐阜県美術館の名品から厳選された美をご覧くださいます。

福井ゆかりの岡倉天心が創設した日本美術院に初期から参画した川合玉堂、そして天心に見出され、再興日本美術院の未来を担った前田青邨。近代から現代に至る岐阜を代表する巨匠たちの日本画。さらに、人間国宝を数多く輩出する岐阜ならではの陶芸まで、山水と歴史により醸成された作品を通して、清流の国・岐阜をめぐる「美と物語の旅」をご堪能ください。

まえだせいそん

前田 青邨

（1885―1977）

岐阜県中津川生まれ。若き日に岡倉天心から「にがりを取りなさい」との指導をうけ発奮。武者絵など歴史画を得意とし、琳派の装飾性も採り入れながら独自の洗練された画風に到達した。

ますらおの眼差し

みやび寿ぎ



前田青邨「応永の武者」昭和22（1947）年



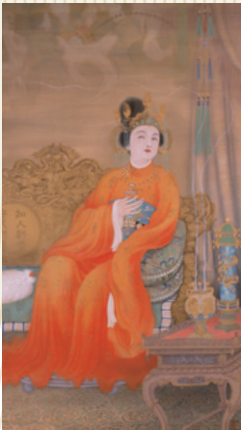
前田青邨「祝日」昭和17（1942）年 ©Y.MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2021 E4340

たまやしゅんぎ

玉舎 春輝

（1880―1948）

岐阜県高山市に生まれ飛騨市の養家で育つ。京都で山元春挙（しゅんきよ）に師事し春輝と号する。官展を離れ、明朗な風景画や歴史画に多くの優品を残した。



玉舎春輝「貴妃追夢」大正14（1925）年

かぎろひの乙女

ももきねの美
清流の旅

9 / 18 土 ― 10 / 31 日

※9月18日（土）は午前11時開場 ※10月12日（火）は休館
【開館時間】午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
【主催】福井県立美術館 【共催】福井新聞社
【料金】一般・大学生 1000円、高校生 600円、中小生 300円
*20名以上の団体は2割引き *障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は半額
*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入場制限や中止をする場合があります。

《関連イベント》

●記念講演会「岐阜県美術館コレクションの歩み」

【日時】令和3年9月19日（日）14:00～15:30
【場所】美術館講堂
【講師】青山 訓子氏（岐阜県美術館 学芸課長）
参加無料・申込不要（先着40名）

●宇佐江みつこ ネコ似顔絵会

【日時】令和3年10月24日（日）13:30～、14:45～、16:00～
（1人約20分、各回3名程度）
【場所】美術館喫茶室ニホ
【作家】宇佐江 みつこ氏（『ミュージアムの女』著者）
【申込】美術館ホームページからお申込ください。
参加無料・要事前申込（先着10名）

岐阜県美術館を舞台に美術館スタッフとしてのエピソードを四コマ漫画でつづった『ミュージアムの女』（KADOKAWA（2017年）、岐阜県美術館twitterにて更新中）。その著者である宇佐江みつこ氏に擬人化ならぬ、擬猫化(?)した似顔絵を描いてもらえる「似顔絵会」を開催。あなたも猫になってみませんか。



©宇佐江みつこ

●キッズミュージアム
「ナンヤローネ アートツアー《SuchSuchSuch》」

【日時】令和3年10月23日（土）10月30日（土）13:30～約2時間
【場所】美術館展示場等
【講師】（10月23日（土）のみ）／岐阜県美術館教育普及係、アートコミュニケーター
【協力】福井県立美術館ボランティア
【申込】美術館ホームページからお申込ください。
参加無料（要展覧会チケット）・要事前申込（各回先着15名）

岐阜県美術館から参加型アートコミュニケーション作品《SuchSuchSuch》が福井にやってくる！作品を観て感じたあんなこと、こんなことを話しながら楽しむ鑑賞プログラムを岐阜県美術館アートコミュニケーター（愛称：～ながラー）と福井県立美術館ボランティアのコラボにて開催します。

●Go Gifu “Timeless Japan,Naturally an Adventure” 上映会

【日時】会期中通期（見どころ解説会開催中は休止）
【場所】美術館講堂（無料エリア） 入場無料・申込不要
映画「ダ・ヴィンチ・コード」に参画した撮影チーム（フランス）が手掛けた岐阜県PR動画を特別上映。

AUDREY HEPBURN

写真展 オードリー・スタイル 飾らない生き方



2021 7/16(金) ▶ 8/29(日)

主催 写真展 オードリー・スタイル実行委員会
(福井県立美術館、福井テレビ)

福井県立美術館では、福井テレビと実行委員会を組織し、7月16日(金)から8月29日(日)までの会期中、「写真展 オードリー・スタイル 飾らない生き方」を開催しました。

1929年にベルギーで生まれたオードリー・ヘプバーン。バレリーナを夢見ていましたが、オードリーはハリウッド映画「ローマの休日」の王女に抜擢され、気品に満ちたプリンセスを可憐に演じ、スターの道を歩きはじめます。

「麗しのサブリナ」「パリの恋人」「ティファニーで朝食を」「マイ・フェア・レディ」……。女優としてはもちろんのこと、くるぶし丈のサブリナパンツやフラットシューズ、シンプルなブラックドレスなど、オードリーは新しい時代をリードするファッションアイコンとなり、誰もが彼女の魅力に夢中になりました。晩年はユニセフ親善大使として厳しい環境に生きる子どもたちへの援助活動にも貢献しました。

女優として、女性として、母として、ひとりの人間として、オードリーの信念のある生き方は、今も多くの人の共感を得ています。

本展では、オードリー・ヘプバーン(1929～1993)の飾らない生き方を著名な写真家の作品を中心に約130点の写真で展観しました。

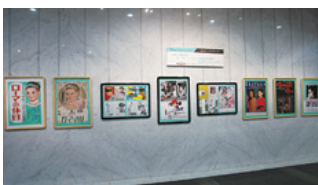
また本展では、真実のロリアルレプリカに触れられる「『真実の口』フォトコーナー」や、ベスパに乗って撮影できる「『ベスパ』フォトコーナー」、オードリー愛用の香水をテストできる「オードリーの愛した香水『ランティルディ』体験コーナー」等特別コーナーを設置するとともに、出演映画のテーマ曲・挿入歌を会場全体に流す等、オードリーを五感で感じることでできる様々な仕掛けをつくりました。このようなオードリーの世界を体感するため、県内外から連日、大勢の美術ファンが来館し、最終的な入館者数は、25,403人に達しました。このため、開館時間の延長等を行いました。

会期中は、土曜日を中心に、学芸員による「見どころ解説会」が実施され、解説を熱心に聞く方が多いため、質問コーナーを設け、複数回開催する日をつくりました。また、「映画『ローマの休日』15分ダイジェスト版」上映会、「プロガーナイト」、「美術館学芸員トークサロン」等、多くの関連イベントが開催されました。

広報では、駅、大型書店、店舗等でのチラシの配架等を実施しました。また、テレビ、ラジオでは、本展の特集番組、ニュース、スポットCM等が数多く放映されるとともに、新聞、雑誌では、記事、広告等が掲載されました。

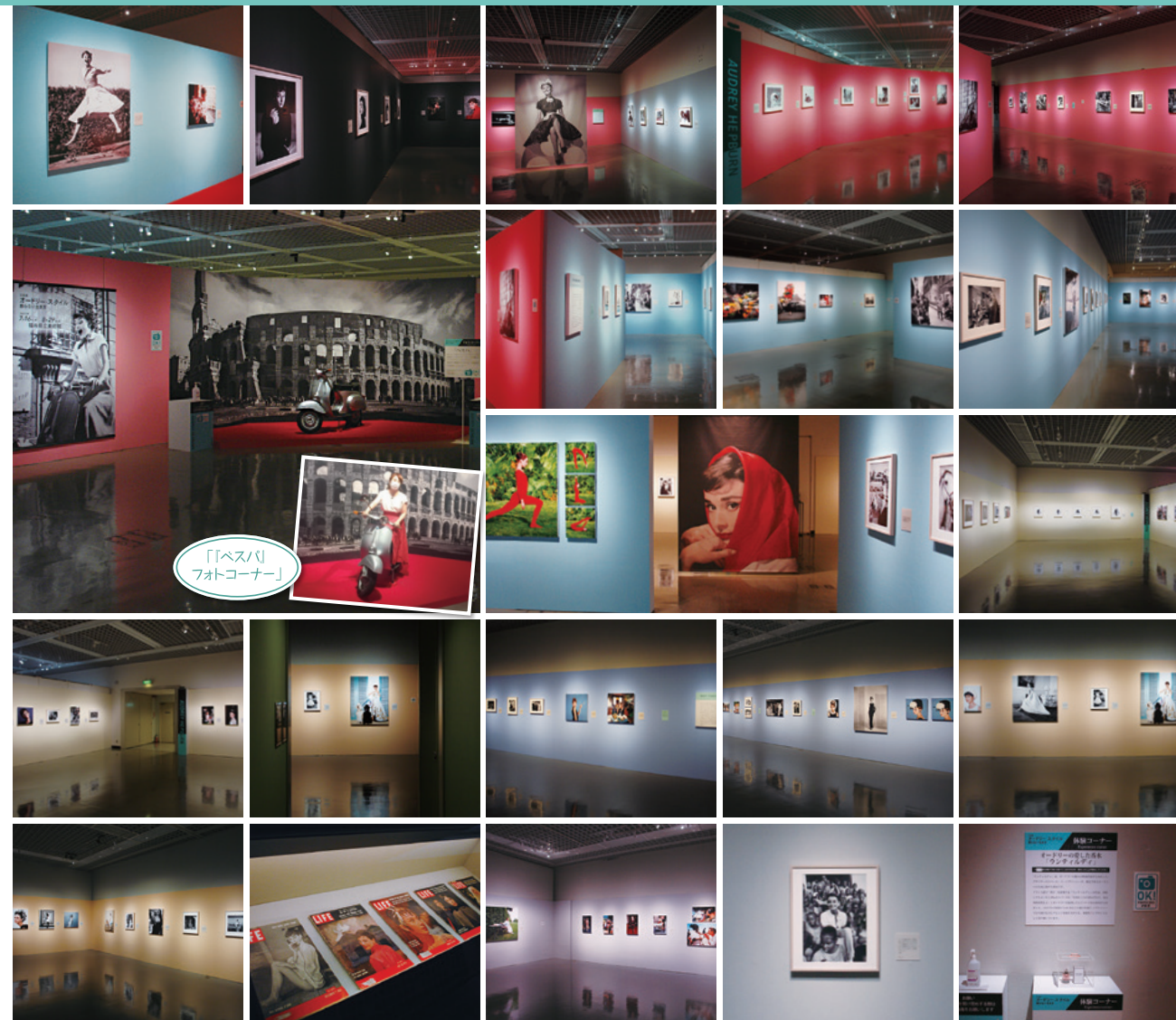
これらの対応を実施したことから、入館者へのアンケートでは、多数の方が「大いに満足」または「満足」とされ、複数回来館された方もありました。

当館としては、この展覧会に御来場、御協力いただいた皆様に対して、この場をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。



フォトコーナー 「福井で上映されたオードリー・ヘプバーン出演作品公開時のポスター・パンフレット」コーナー 提供:メトロ劇場

ギャラリートーク(7月16日(金))



「オードリーの愛した香水『ランティルディ』体験コーナー」

《関連イベント》

●見どころ解説会

[日時] 令和3年7月17日(土)、24日(土)、31日(土)、
8月7日(土)、14日(土)、21日(土)、28日(土)、29日(日)
※各回10:30～(約40～45分間)実施
※8月28日(土)、29日(日)は各回16:00～(約40～45分間)も実施
[場所] 福井県立美術館講堂
[講師] 西村直樹
(福井県立美術館総括学芸員)
[参加人数] 420名

約80枚の写真を投影し、解説。
オードリーの人生を浮き彫りにした。



●「映画『ローマの休日』15分ダイジェスト版」上映会

[日時] 令和3年7月16日(金)～8月29日(日)
9:00～17:00
※8月28日(土)29日(日)は
9:00～18:00
[場所] 福井県立美術館講堂
[参加人数] 11,075名



●プロガーナイト

[日時] 令和3年7月16日(金)
17:00～19:00頃
[場所] 福井県立美術館
エントランスロビー、
第1・第2展示室、
ギャラリー展示室
[講師] 西村直樹
(福井県立美術館総括学芸員)
[参加人数] 21名



●美術館学芸員トークサロン

[日時] 令和3年8月1日(日)18:00～19:00頃
[場所] 福井県立美術館喫茶室ニホ
[講師] 西村直樹
(福井県立美術館総括学芸員)
[参加人数] 10名



数々のエピソードを披露。
オードリーについて語り尽くした。



右隻



左隻

【購入】狩野勝玉「四季山水図屏風」
 各 縦:90.7×横:386.4(cm) 屏風装 8曲1双 紙本金地着色
 勝玉昭信書 白文方印「藤原」朱文方印「昭信」 江戸時代(19世紀)

狩野勝玉(1840-1891)は本名を昭信、深川水場狩野家の貞信(梅春)の子。中橋狩野家の門人を経て木挽町狩野家・10代目にして最後の当主、狩野勝川院雅信(1823-1879)に師事した。狩野芳崖(1828-1888)、橋本雅邦(1835-1908)らの兄弟弟子にあたり、芳崖、雅邦、木村立嶽(1827-1890)、と共に勝川院門下四天王と称された。

維新後は内務省地理局雇となり、地図や輸出用作品を制作した。明治15年(1882)内国絵画共進会において第6区審査官を務める。また、アーネスト・フェノロサ(1853-1908)主催の鑑画会に第1回から参加。この時期、京橋区山城町(現在の中央区銀座)に在住していた。

本図は右隻に春景、夏景が描かれ、前景には桜や梅、松や青柳と共に、農耕や漁業に従事する家族の様子を表している。中景には広く帆船の行き交う海を描き、遠景に対岸を望む。また、左隻は秋景、冬景であり、前景に紅葉した水辺の村落が描かれ、砦を打つ女性、船わらを運ぶ人々などで農村の秋の風情が表わされる。中景では四阿と共に黄金色に輝く田畑で実りの季節を示す。そして、遠景に雪を抱く山が描かれ、画面内に余すことなく四季の景物が散りばめられている。画面全体を通して濃彩を用い、金砂子を蒔く、狩野派の中でもやまと絵の要素をふんだんに取り入れた形式を用い、華やかで伝統的な色面を構成する。前景には典型的図様により豊作や子孫繁栄を示す一方で、右隻中景から遠景にかけての真景図を彷彿とさせる鳥瞰視による風景描写や写實的に描かれた帆船からは、伝統的山水画題に幕末から明治にかけて到来した新しい知識を取り入れるという試みが見られる。

【購入】英一蝶「四睡図」

縦:34.4×横:55.8(cm) 掛幅装・1幅 絹本墨画淡彩
 落款「英一蝶」、印章「信香之印」朱文方印 江戸時代(18世紀)

四睡図とは3名の人物と1頭の虎が寄り添って眠る姿を描く画題である。人物は、中国天台山国清寺の豊干禪師とその弟子ともされる寒山、拾得。いずれも奇行で知られる唐代の禪僧で、豊干禪師は虎の背に乗っていたとの逸話が伝えられる。また寒山は巻物を、拾得は箒を持った姿で描かれることが一般的で、本図でもこの伝統を踏襲している。彼らの安らかに眠る姿が森羅万象の静寂や、仏教の悟りの境地を示すとされ、道釈人物画の好画題として、日本でも中世以降多くの作品が描かれてきた。

本図では従来の四睡図に見られる眠りについた姿ではなく、今まさに眠りから覚める瞬間を描いている。あくびや伸びをする彼らの表現は非常にユーモラスであり、いずれも対象の動作を生き生きと的確にとらえている。「あーよく寝た」という拾得の言葉が聞こえてくるような自然な動き、ネコ科特有のしぐさが微笑ましい虎の姿からは、“静寂”を示す伝統的主題を超越し、世の中が目覚め動き出す瞬間と描こうという英一蝶の機知がうかがわれる。

英一蝶(1652～1724)は17～18世紀にかけて活動した絵師。幕府奥絵師の狩野安信に師事して狩野派を学ぶ。吉原などの都市風俗を描いた個性的な作風で人気を博すが、元禄11年(1698)に三宅島に流罪、11年後に赦されて晩年は江戸で活動した。また自作に「越前の産岩佐某となんいふもの、歌舞白拍子の時勢粧をおのずから写しえて、世の人うき世又兵衛とあだ名す」と岩佐又兵衛への強い意識を記している(『四季絵跋』、享保三年(1718))。

本図は「一蝶」の署名から、宝永6年(1709)年の改名以降、没年までの作であることがわかる。

この作品は、
 「新春展 虎～美の中の虎を捕まえよう～」
 (令和3年12月24日(金)～1月16日(日))
 に登場します!

《展覧会紹介》

岐阜県美術館名品展 同時開催

見せます、魅せます

日本の美
 うつくしの逸品

9/18(土)～10/31(日)
 ※9月18日(土)は午前11時開場
 ※10月12日(火)は休館

【開館時間】午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) 【料金】一般・大学生 100円(20名以上の団体は2割引)
 ※高校生以下、70歳以上、障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料。※毎月第3日曜日「家庭の日」(9/19、10/17)は無料。
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入場規制や中止をする場合があります。

狩野芳崖《伏龍羅漢図》(部分) 明治18(1885)年

重要文化財《無銘 伝備中依真》
 南北朝時代(14世紀) 個人蔵

《青白磁渦文瓶》(部分)
 中国 南宋～元時代(13～14世紀)

狩野勝玉
 《四季山水図屏風》(部分)
 江戸時代(19世紀)

重要文化財《世界及日本図屏風》左隻(部分) 桃山時代(16世紀) 福井県立若狭歴史博物館蔵

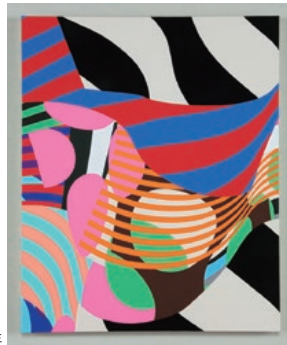
豊かな風土と繊細な美意識のもと、優れた芸術を生み出してきた日本。古くは中国大陸からもたらされる文化の精粹を汲み上げ、近世に入ると西洋諸国からの影響も受けつつ独自の美術文化を醸成しました。長い年月の中で培われた美の技により作り出された“うつくしの逸品”は、日本が大切にしてきた美を愛する心を現代に伝えています。本展は岐阜と福井、両県交流のシンボルである特別企画展「ももきねの美 清流の旅～日本画の巨匠と陶芸の人間国宝～岐阜県美術館名品展」と同時開催する展覧会として、福井県にゆかりのある「日本の美」をご紹介します。《青白磁渦文瓶》、重要文化財《刀 無銘伝備中依真》など近世の武家により極められた高潔な美、重要文化財《世界及日本図屏風》よりうかがい知れる世界への視線、さらに狩野勝玉《四季山水図屏風》などに込められた伝統を忍ばせる優雅な趣によって、脈々と受け継がれてきたうつくしの真髄に思いを馳せます。日本海に面し、文化の玄関口の一つとして、また交易の主要地として栄えた福井ならではの“逸品”を通して洗練された美の世界をご堪能いただきます。

次回展覧会のお知らせ

「いろ・いろいろ。色と作品の世界。」

〔会期〕 令和3年 令和4年
12月15日(水)～1月16日(日)

色彩は形態や質感とともに、作品の表現上きわめて重要な要素といえます。本展では色と作品が織りなす、様々な表現の世界をお楽しみいただきます。



今井俊介《untitled》平成30(2018)年

「新春展 虎～美の中の虎を捕まえよう～」

〔会期〕 令和3年 令和4年
12月24日(金)～1月16日(日)

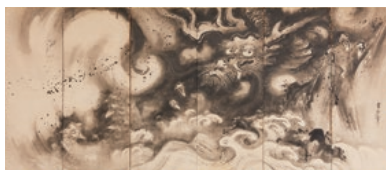
令和4年の干支は「寅」。虎は古くから絶好の題材として好まれてきました。愛らしい虎、雄々しい虎、美のなかに生きるさまざまな虎をご覧ください。



英一蝶《四睡図》18世紀

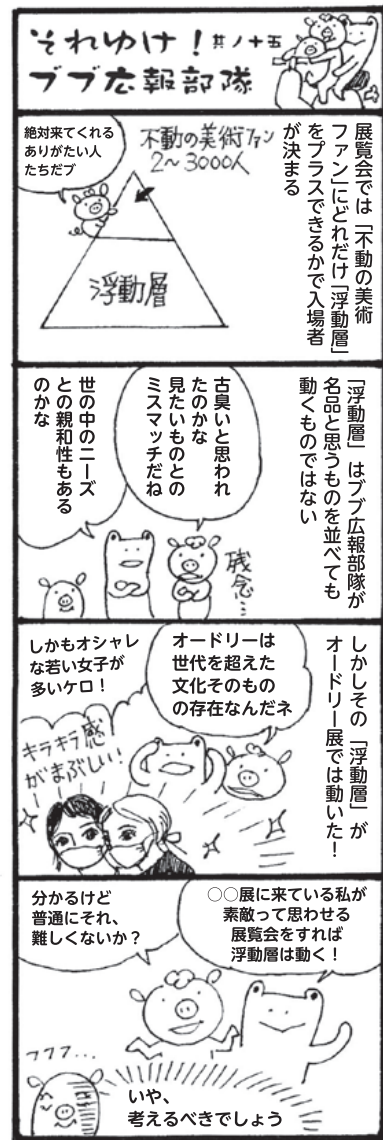


鶴澤黄琢《龍虎図屏風》18世紀



(左隻)

(右隻)



絵・文 ささきみほ



展覧会特別メニュー

「てんさい 栗りんパフェ」

岐阜県といえば、栗スイーツなので、今回の展覧会特別メニューのテーマは「栗」にしました。
「渋皮栗アイス」と「マロングラッセ」の栗コンビに、ニホ特製の「てんさいプリン」や「ミルク珈琲アイス」を絶妙に組み合わせて、楽しみ満載のスペシャルなパフェに。

美術館喫茶室 二ホ

〔営業時間〕 9:00～19:00
〔定休日〕 月曜日
〔電話番号〕 0776-43-0310

*フリーWi-Fi

*美術館が休館でも定休日以外は営業



Facebook



Instagram

◎2021年10月～2022年1月の休館日について ※ ピンク枠の日付が休館日です。
館内メンテナンス、展示替え等のため、下記の日程は休館とさせていただきますのでご了承ください。

お知らせ

10月							11月							12月							1月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2		1	2	3	4	5	6				1	2	3	4						1	
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
24 ₃₁	25	26	27	28	29	30	28	29	30					26	27	28	29	30	31		23 ₃₀	24 ₃₁	25	26	27	28	29



美術館のHPはこちら▲